

昭和後半に小学生だった人なら、学校で脊柱側弯症の検査を受けた経験があるはず。簡単に正確な検査を目指して、民間企業(株)電制コムテックとも協力して検査機器「スクリオデバイス」の開発に従事した旭川医科大学整形外科学講座の今井充技術員に、高桑整形外科永山クリニックの高桑昌幸院長が尋ねた。

高桑 まず、脊柱側弯症がどのような病気なのかについて確認しておきましょう。

今井 首から腰にかけて伸びる脊柱は、健康なら前から見てまっすぐ、横から見ても緩やかにカーブしています。脊柱側弯症では右または左に脊柱が曲がります。多少曲がっていても問題はないのですが、脊柱側弯症のうち80〜85%を占めると言われる特発性側弯症は脊柱が大きく曲がり、深

高桑整形外科永山クリニック
Dr.高桑の
メディカル
ジャーニー
第60回 スクリオデバイス①

刻な症例では内臓が圧迫されたり、運動能力に影響が及んだりします。

高桑 脊柱側弯症は思春期の女子に発症することが多いですね。

今井 はい。原因は不明で、予防は残念ながら不可能です。成長期の間は放置しておくとう弯曲が進行するため、ブレース(装具)を装着することで進行を防ぎます。高度の側弯症を矯正し進行を止めるには、外科手術をするしかありません。



コブ角40度以上の症例 (日本側弯症学会のページから引用)

自覚症状がないことから早期の自己判断が困難だということですね。

今井 それだけに、学校検診などで早期に発見することが重要となります。

高桑 彎曲の度合いを示す指標が「コブ角」ですね。

今井 最も傾きが大きい上位終椎の上面と最も傾きが大きい下位終椎の下面に垂線を引いたとき、2本の垂線が交わってできる角度がコブ角です。コブ角で分類すれば、10度を超える側弯症は全体の2〜3%、20度以上は0.3〜0.5%、30度以上は0.1〜0.3%、40度以上は0.1%未満とされています。

高桑 統計によれば、

女子児童1000人のうち脊柱側弯症で何らかの治療が必要なのは2〜3人と言われています。この2〜3人を確実に発見して治療に結び付けることが重要です。

今井 実際には、学校検診を受けたにもかかわらず脊柱側弯症を見逃され、親に勧められ旭川医大病院を受診して、高度に症状が進行してから発見されることがあります。

高桑 学校での検査は目視ですね。

今井 医師は①両肩の高低差②肩甲骨の高さの左右差③ウエストラインの左右非対称に注目します。もう一つ、とくに有

プロフィール たかくわ まさゆき
1966年生まれ、旭川東高、順天堂大学医学部卒。旭川医大整形外科、各基幹病院での勤務を経て、2003年に高桑整形外科永山クリニックの院長に就任。日本専門医機構整形外科専門医。2020年2月より旭川医大整形外科科学講座客員講師。

力な手掛かりが、④被検者が前屈した状態での腰部の隆起です。盛り上がった部分に左右どちらかに偏っていれば、脊柱側弯症の可能性が大きいと言えます。

高桑 しかし、目視は「目分量」ですから誤差が避けられません。また、脊柱側弯症の目視による検査は脱衣して行う必要がありますが、現代の教育現場にとっては何かと負担があります。かといって着衣状態では検査の精度が落ちますね。

今井 そのような状況の中、三十数年前から、正確に簡単に脊柱側弯症の検査ができる機器が必要ではないかとの声が上がります。旭川医科大学では開発を続けてきました。

高桑 それが「腰背部傾斜計(スクリオデバイス)」ですね。詳しくはこのコーナーで次回以降お聞かせください。